

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 12月稚魚調査 速報

●実施状況

令和3年12月7日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温は12.6～13.2℃であった。調査地点は北寄りの風2.0～4.0m/sであった。調査当日は中潮で、満潮は7時41分、干潮は12時52分であった(気象庁のデータ)。

全地点において出現した魚種は少ないものの、お台場海浜公園と葛西人工渚では稚魚が確認された。なかでも葛西人工渚ではアユの稚魚が多数出現した。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:08-10:13	10:40-11:27	12:12-14:00
水温(℃)	14.7	14.8	15.2
塩分(-)	26.7	24.2	29.7
透視度(cm)	>100	>100	67.0
DO(mg/L)	5.5	5.8	6.6
DO飽和度(%)	63.7	66.9	78.4
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.7	7.6	7.9
水の臭気	無臭	弱下水臭	無臭
備考		調査時、干潟は干出していなかった。	

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ピリンゴ(c)	マハゼ(r)	アユ(m)
	アユ(+)		キチヌ(r)
	ニクハゼ(r)		チクゼンハゼ(r)
	チクゼンハゼ(r)		エドハゼ(r)
魚類以外	シラタエビ(+)	エビジャコ属(r)	ニホンイサザアミ(G)
	クロイサザアミ(r)	ニホンイサザアミ(r)	シラタエビ(m)
備考			アユやニホンイサザアミが多く入網した。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる大工の渚。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10日～2週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で3～4cmになるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。



河口付近の干潟域で稚魚は3～5月に大量発生する。稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵する。



した場所や転石域等に出現する。河口域でもみられる。ピリンゴによく似るが、ピリンゴの口が小さいのになら、ニクハゼは目の後端の先まで口端が伸びている。



河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。体側に明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があるのが特徴。エドハゼによく似る。

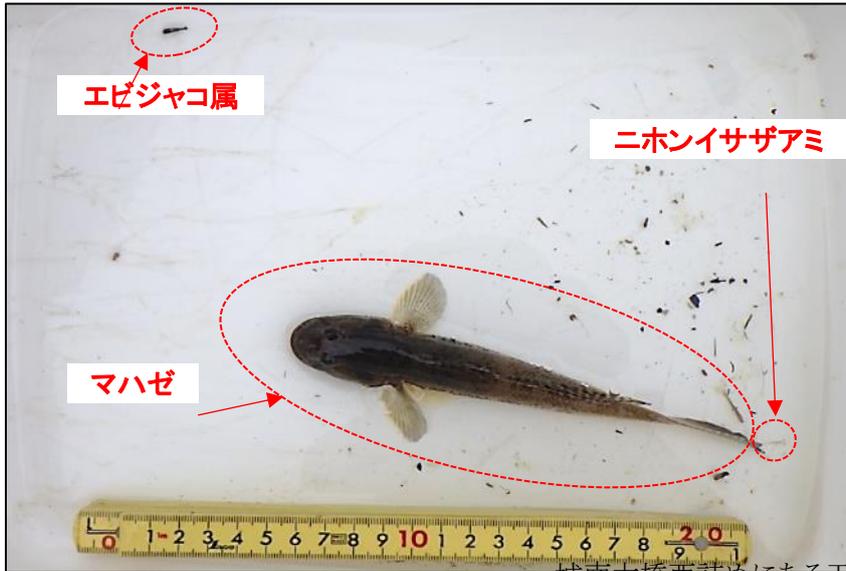


青い触角が特徴のエビ。額角の基部が盛り上がることで、スジエビ類と区別ができる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では体側に青色斑が現れることが多い。



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。体長15mm程になる。腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ、黒っぽい体色をしている。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1目盛:1mm



東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深い場所へと移動する。寿命は1~2年であるが、全長が最大で28cmに達するものもいる。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに獐猛で、稚魚等を捕食することが知られている。

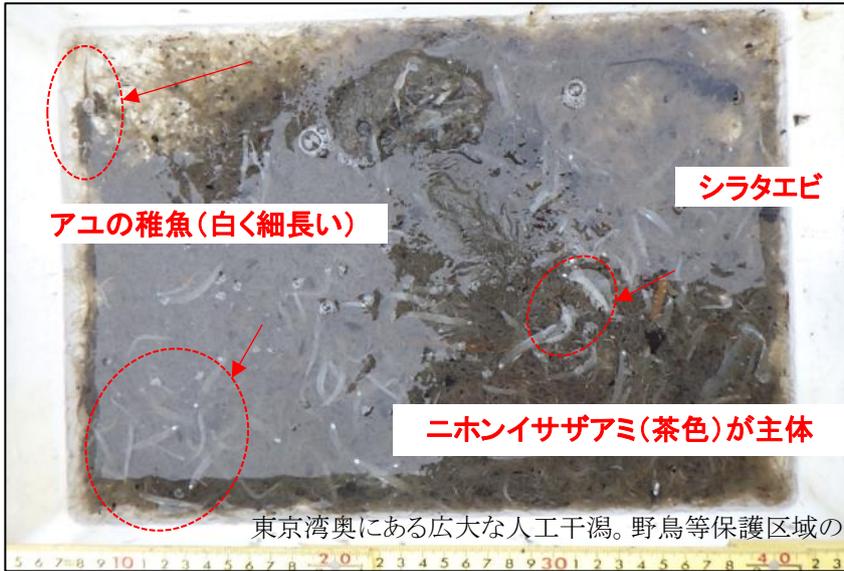


体長10mm程。クレイサザアミ同様、汽水域に生息するアミの仲間。春に河口域で大量発生し、魚類等の餌となる。この調査においても、時期により大量に出現する。



ヒメハゼ(R2/6/5 葛西人工渚にて採取) 下顎が上顎より突出している。
 アシシロハゼ(R3/5/12 お台場海浜公園にて採取) 鱗がやや粗く、体側には白色の横帯がある。

葛西人工干潟 チクゼンハゼ



アユの稚魚(白く細長い)

シラタエビ

ニホンイサザアミ(茶色)が主体

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。



調査地点の様子



調査の様子

アユ

●主な出現種等 ※写真のスケール 1目盛:1mm



※解説はお台場海浜公園を参照。
今回、本地点では500個体程確認された。



チクゼンハゼ

※解説はお台場海浜公園を参照。



エドハゼ

湾奥の干潟域に住息し、砂泥地を好む傾向がある。アナジャコの巢穴を隠れ家として利用している。小型の甲殻類を食べる。よく似るチクゼンハゼより体側の横斑が薄い。また、顎下の突起はない。

キチヌ

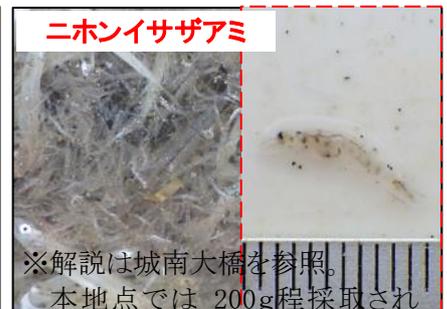


沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底等に生息する。成魚はクロダイに似るが、産卵期はキチヌが10~1月、クロダイが3~6月と異なり、干潟域での出現時期が異なる。



シラタエビ

※解説はお台場海浜公園を参照。本地点では100個体程確認された。



ニホンイサザアミ

※解説は城南大橋を参照。本地点では200g程採取された。